



中等
實用習字帖

下

K220.72
52
3

K220.72

52

3

文學士 岡田正美先生閱
鶴堂 小野鋼之助先生書

中等實用習字帖

書道振興會編

下

需要供給經濟原則

次資本基礎資格屋號

鑑札卸賣仲買請負

擊劔爭鬪防禦鍛鍊

障
碍
排
除
危
險
遭
難

警
戒
覺
悟
應
援
義
捐

品性嗜好高尚優美

下
B

溫厚篤實質素勤儉

博聞強記
識見精通

沈着穩當
嚴肅粗暴

機敏迂闊熱心冷淡

輕薄卑劣柔弱怠惰

北海道、樺太、東京、京都、大阪、神奈川、兵庫、
長崎、新潟、埼玉、群馬、千葉、茨城、栃木、奈良、
三重、愛知、静岡、山梨、滋賀、岐阜、長野、宮城、
福島、巖手、青森、山形、秋田、福井、石川、富山、

鳥取、島根、岡山、廣島、山口、和歌山、徳島、香
川、愛媛、高知、福岡、大分、佐賀、熊本、宮崎、鹿
児島、沖縄、臺灣、朝鮮、山城、大和、河内、
和泉、攝津、伊賀、伊勢、志摩、尾張、參河、遠江、

駿河甲斐伊豆相模武藏安房上総下総
常陸近江美濃飛騨信濃上野下野磐城
岩代陸前陸中陸奥羽前羽後若狹越前
加賀能登越中越後佐渡丹波丹後但馬

因幡伯耆出雲石見隱岐播磨美作備前
備中備後安藝周防長門紀伊淡路阿波
讚岐伊豫土佐豊前豊後筑前筑後肥前
肥後日向大隅薩摩壹岐對馬

芳書相讀之堂

契履清茶性健

体神足舞依彩

结构顶戴上结

遠通輕少爲母

而倒手教都令

返者密教推察

通告傳聲最里

親履活直披卷

研執事結史

法仰越の趣有承大體

に於て至極高の妙計

と存心も一塵地の

諸君にも相談いたす

そのふたて礎たふす賛

香中ふらふら枝一奴

喜後お借し、
もあらせらば、
は。

沙汰のみ、
申す。な。

通りはあの所と一筋も違
お始めは實に学業技よ百将

来り引立に張りたぐ尚ほ是
合の方とにもう世所紹介下

それ後、既いよげの。先は開拓の
此被るもぐけの如くに著る。

所此を極の容態とありは
とめ業し申上げたりは、

以養生にせらるるが如く以漸を以て
ばはれぬが如く以報を以て受

たがらるるが如く以皆く標の如く
傷を以てなると以家を一に以て

此の夜も不眠の心尖難寐よはる
の毒の毒り何れも申さげや

うもは度なき。精と歩加ふ
お成り一日も早く元の心難よはる

復を成るるなり新り入りひ。昨

は男子様は出生たすれひ

大受玉極家内一回少親いり。

この品粗末ながらぬ義母の

る。まがに。美とげなり。所。笑納
あり。の。友。結。梅。なる。は。思。深。心

に。浮。面。と。ま。ご。な。し。あ。わ。い。ぬ。お
交。付。し。ま。す。の。朝。は。河。の。水。は。あ。ま。り。な。し。

九月廿九日
実家親戚に病入
出来何れ

百中

系と作り難く
す思召りたる
断り

と。先刻はわびしく柱駕を
し。愛生僧に當るに一誠に矣。

は。女中にしる事なきの件は急
持肩の事案中しるごとく候。

履歷書

原籍 千葉縣香取郡倉山村字倉山五番地
現住所 東京市小石川區日向水道町丁百六番地
町田方

ヲ授與セラル

右之通り相違無之候也

右

山村芝吉印

明治四十四年六月三十日

履歷書

原籍 千葉縣香取郡倉山村字倉山五番地
現住所 東京市小石川區小日向水道町丁目六番地

町田方

戶主平民春造長男

山村芝吉

明治二十七年六月七日生

學業

- 一 明治三十三年四月千葉縣香取郡倉山村倉山尋常小學校ニ入學
- 一 明治三十九年三月右同校第六年級修了

一同 年四月東京府立第四中學ニ入學

一 明治四十四年三月右同校卒業

賞罰

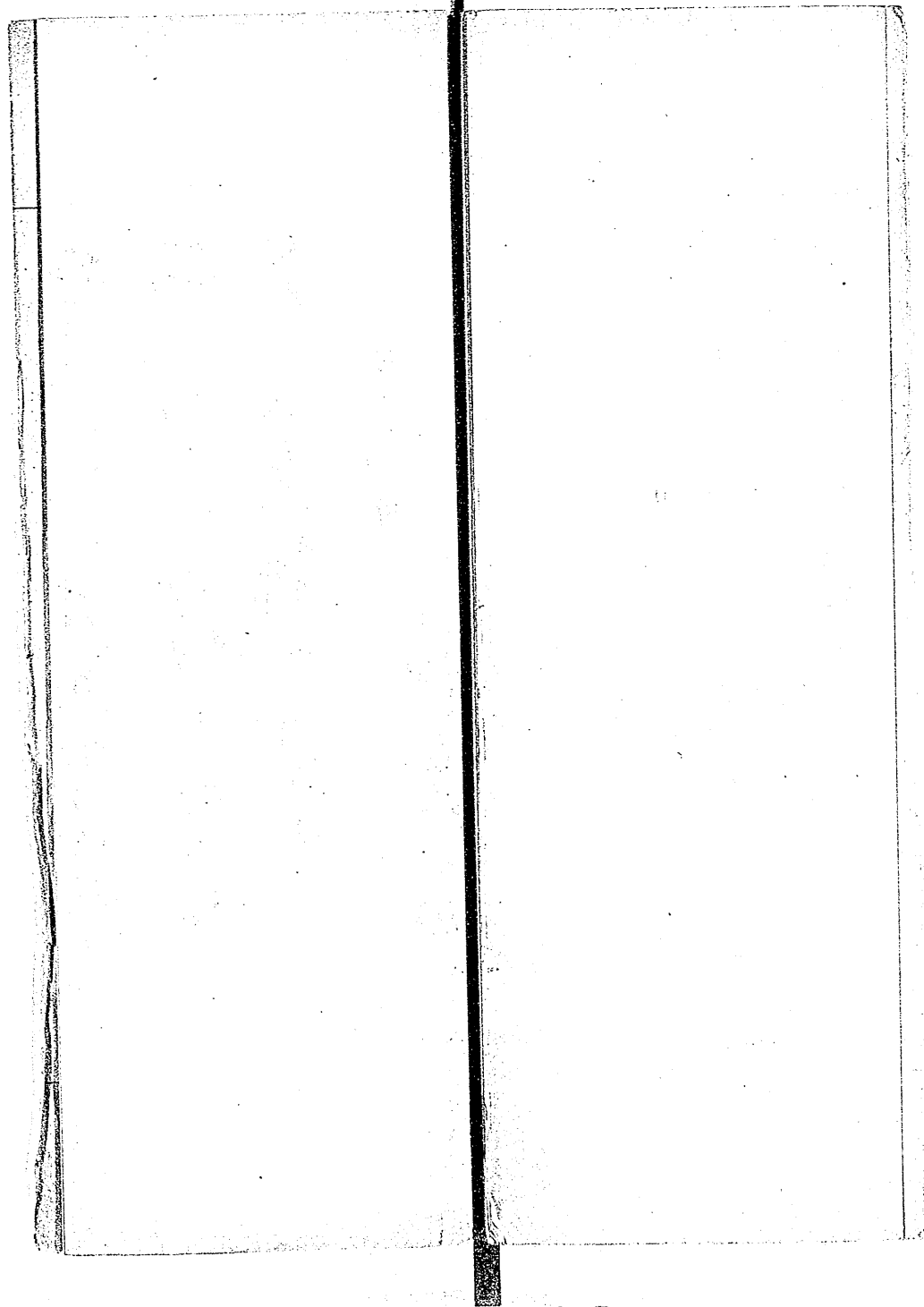
- 一 明治三十七年三月三十一日一學年間皆勤ニ付キ賞狀并ニ賞品ヲ授與セラレ
- 一 明治三十九年三月三十日成績優等ニ付キ賞品ヲ授與セラレ

右之通り相違無之候也

右

山村芝吉 (印)

明治四十四年六月三十日



拜啓

法帰者復一向に法便り

たぐくしまゝの如く清光なき

はらうと少業しやとげ既ニ

是れ舞状認めんと致し居

りも又山川君より端甚係

初めて大兄の之病等の中を

承る致し驚き入りしりよ

本手の特異気几烈しとて

甚き者たる者もとも随分

早口致したりゆことなりし

は病体よりハナとぞ山難儀の

法事と云ふ上げの殊に平素

本年は特に暑気が烈しくして
甚き者なる者も随分
早に波に打ちひたされし
病体もハナを以て難儀の
事と云ふ上げの殊に要素
御丈夫と云病の経験なす
大見に於て一層の事と云
上げの精を養生たすし
おぼし

暑と先百一寸暑ありの
暑味と云る言作薬波に
ひの最子全快取「昨今」
と此方の游泳場に毎日
たすに余り居る

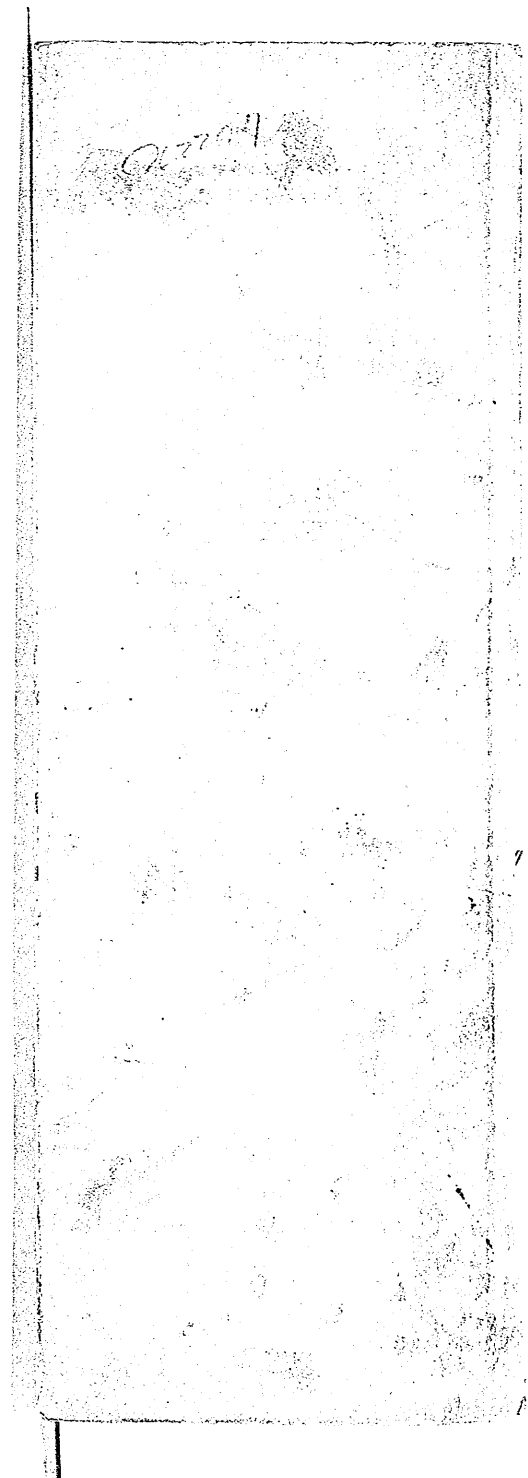
最も暑中休也と半ほど
暑中と云核の始まる
たすに余り居る
それまでには全快ありて
九月の元の健康ありは

幸と先百一才暑くあつたの
筆末より百言帖薬液一
ひが最平全快致し昨日ハ
山形市の游泳場に毎日入る
たらずに余り居る
最平暑中休養も半ほど
過ぎたが学校の始まるまで
たつことありしを先は是れ
それまでとは全快あつて
八月二元の健康あるは顔
梅はるや新り居り候
先は夏見舞いまでとあり

八月十五日

松尾本ため

市島仁之助様
付箋



裏表紙欠